

# 令和4年6月開成町教育委員会定例会 会議録

日 時： 令和4年6月23日(木) 13時10分～

場 所： 文命中学校 会議室

出席者： 井上教育長、村岡教育長職務代理者、野地委員、上野委員、本澤委員

【事務局】岩本教育委員会事務局参事兼学校教育課長、

高橋生涯学習課長、尾川学校教育課学校教育班長

議 事：

1) 開会 教育長より開会の宣言

2) 会議録署名人の指名 村岡委員が指名された。

3) 議事

《協議事項》

(1) 令和4・5年度開成町青少年問題協議会委員の推薦について 【資料1】

・資料1について説明した。

○教育長 協議事項(1) 令和4・5年度開成町青少年問題協議会委員の推薦について事務局から説明してください。

○事務局 協議事項1の開成町青少年問題協議会委員の推薦についてご説明します。資料1をご覧ください。開成町青少年問題協議会は、地方青少年問題協議会法に基づき町条例にて設置されたもので、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な事項を調査審議します。年1回の会議への出席のほか、関連する事業への協力等があります。開成町青少年問題協議会条例第3条には、会長及び委員12人をもって組織すること、町長が委嘱する委員の中に町教育委員会委員の1人を含むことなどが規定されています。そこで、教育委員会委員の中から1名を開成町青少年問題協議会委員として選出いただきたい、ご協議をお願いします。

なお、今回の任期は2年間であり、任期は、令和4年4月1日から令和6年3月31日までとなります。また、会議開催時期としては、7月を予定しています。前任者は村岡委員でした。説明は以上になります。

○教育長 ただいま事務局から提案がありましたように開成町青少年問題協議会委員として教育委員会委員から1名推薦を求められています。任期は2年ということですが、前任は、村岡委員となっております。引き続き村岡委員にお願いできますか。

○委員 承知した。

○教育長 それでは、開成町青少年問題協議会委員の推薦につきまして、教育委員会としては引き続き村岡委員にお願いするということで、よろしいでしょうか。

- 全委員 異議なし。  
○教育長 それでは、協議事項（１）令和４・５年度開成町青少年問題協議会委員の推薦についてはここまでとさせていただきます。

《報告事項》

（１）令和４年度 ２０歳を祝う会の開催について

- ・資料２について説明した。

○教育長 報告事項（１）令和４年度 ２０歳を祝う会の開催について事務局から説明してください。

○事務局 資料２をご覧ください。令和４年度 ２０歳を祝う会開催要項に沿ってご説明させていただきます。まず、趣旨ですが、新たに２０歳を迎える方を対象に、社会を形成する構成員としての責務が大きく増すことへの自覚を促すとともに、激励と祝福のため開催するものです。開成町では、成人を迎えた１８歳ではなく、２０歳でお祝いをする事となっております。主催は開成町、運営協力といたしまして令和４年度 ２０歳を祝う会企画委員会を今後発足させていきたいと思っております。開催日時は、令和５年１月８日（日）の１０時から開催させていただきます。開催場所は、開成町福社会館です。対象者は、今年度 ２０歳を迎える ２１８名を予定しております。来賓は、教育委員会委員、町議会議員、文命中学校・開成小学校・開成南小学校卒業時の担任教員等となっております。日程は、主なものとして、式典と記念写真撮影とアトラクションとなっております。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により、開催の可否または開催内容の簡素化も考えております。２０歳を祝う会についての報告は以上となります。

○教育長 ２０歳を祝う会という名称をもって２０歳になる皆さんのお祝いをするということです。従来のやり方と違うのは、飲食がないということです。ご質問等がありましたら、お願いします。参考までに、近隣では、２０歳を祝う会、１８歳成人式どちらが多いのか。

○事務局 神奈川県内のほとんどの自治体が２０歳を祝う会です。一部、１８歳成人式を開催するところもあります。受験等に配慮して２０歳を祝う会が主流となっていると考えています。

○教育長 県内ほとんどの自治体で２０歳を祝う会というかたちで実施することです。他に御意見はございますか。

○全委員 意見なし。

○教育長 それでは、報告事項（１）令和４年度 ２０歳を祝う会の開催についてはここまでとさせていただきます。

（２）経過報告、今後の予定について

- ・資料３について説明した。

○教育長 報告事項（２）経過報告、今後の予定について事務局から説明してください。

○事務局 それでは、資料３をご覧ください。６月の経過報告をさせていただきます。

きます。1日に登校指導を行いました。6月4日から12日まで開成町あじさいまつりが開催されまして、18万人以上の方にご来場いただきました。6月15日は、登校指導日でした。また、6月15日から17日まで2泊3日で文命中学校3年生が修学旅行に行ってきました。6月17日、19日は、開成町議会6月定例会議がありました。6月18日は、開成小学校・開成南小学校において学校公開日を開催しました。6月23日本日は、定例教育委員会ということで、文命中学校で開催しております。

続きまして、7月の予定です。7月1日は、登校指導日です。7月8日は、園長・校長会議を開催させていただきます。7月15日は登校指導日となっております。7月20日は、園・学校の1学期の終業式となっております。7月21日は、定例教育委員会を町民センターで開催させていただきます。7月28日は、令和4年度市町村教育長・教育委員研究協議会で文部科学省主催の研修会となっております。

今回は、オンライン研修会ということで第1回、第2回のいずれかに参加していただきます。研修期日が近づきましたら再度ご連絡させていただきます。説明は以上です。

○教育長 補足ですが、6月22日は、文命中学校2年生が鎌倉遠足へ行っております。

### (3) 開成町立学校の様子について

○教育長 まず、学校関係の様子ですが、開成幼稚園について、毎月発行している学級だよりを最近では、手書きではなくパソコンも活用するようになってきました。今後、幼稚園教育のICT化も検討していきたいと考えているところですので、教員側も徐々に機器の扱いに慣れてきている状況は良いことだと考えております。どのようなICT教育を実践したいのか、まずは、幼稚園のなかで検討させようと考えています。また、6月に入ってから、年長児の就学相談が増えています。発達相談ということで、指導主事やスクールカウンセラーが保護者の相談にのります。わが子の発達に不安を持つような保護者が年々多くなっている気がします。核家族化の進んでいること等も要因の一つかもしれません。教育委員会としては、安心して学校に通わせることができるよう丁寧な保護者対応をしていきたいと考えております。

開成小学校ですが、学校全体が落ち着いています。職員の年齢構成が散らばっていてバランスが良いと感じております。また、土曜参観をやり、午後引き渡し訓練をしたのですが、保護者からは最近学校に行くことが少ないので、授業参観できてよかったという感想をいただいているようです。様々な保護者、子どもが多いかなと思っています。必要に応じて 関係機関と連携を取っていきたいと考えています。

開成南小学校ですが、雰囲気は活発、明るい雰囲気です。6月18日に、授業参観を行いました。こちらは、地区別で分散、午後引き渡し訓練を行いました。また、2つの小学校ともに、元開成小学校長の

方が、5年生の理科メダカ学習の講師をしてくださり、とてもいい経験をしていました。

文命中学校ですが、6月初旬には、全員で、あじさいまつり開催前に除草活動を行いました。非常に熱心にやってくれました。3年生は、関西方面へ2泊3日で修学旅行に行ってきました。生徒にとっては、良い思い出ができたようです。今年は、神戸の震災博物館を訪問し、災害を学ぶよい機会になったようでした。また、2年生については、鎌倉遠足に行ってきました。中学校としては、この鎌倉遠足を重視しています。ここでの活動が、3年生の修学旅行につながるので予行演習としての役割もあるためです。

生涯学習関係についてですが、子どもたちの夏休み中の行事として、ジュニアサマースクールを復活します。各事業所のご協力を得て、実施が可能なものについては、再開していきたいと考えております。また、幼小中高連携事業では、吉田島高等学校と城北工業高等学校のご協力をいただいて焼き菓子などの作り方などの学びをさせていただきます。ジュニアリーダーキャンプですが、青少年指導員主催で、1泊2日、国立青少年交流の家で行います。現状、定員40名に対して36名の申込がある状況です。

スポーツ関係ですが、感染対策を徹底し、活動しています。また、議会関係について情報提供させていただきます。6月定例議会の一般質問において、幼稚園バスの通園範囲や園庭芝生化に関する質問がありました。その他の質問としては、児童生徒用の防災ヘルメット配備状況に関する質問がありました。防災ヘルメットもあるに越したことはないと思っておりますが、災害発生時、どのような場面でどのように活用するのか具体的に検討した結果、現時点では、防災頭巾の方が有用性があると考えております。また、学校におけるマスク着用に関する質問もありました。町としては、引き続き文部科学省のマニュアルに沿って学校運営を行っていく旨、答弁させていただきました。

#### 報告事項（4）その他

##### ○事務局

前回の教育委員会定例会で示した取組方針及び園学校における教育課題の取組の結果についてまとめたものが数字的に不足していたということがありましたので改めて精査した資料でご説明させていただきます。資料の一番最後のページに集計表をまとめています。◎が、ほぼ9割を占めており、△が13、×が1という内訳となっております。理由等は、後ほどご覧いただければと思いますが、△の13個のうち11がコロナの影響によるもの、2つは別の理由によるものですが、コロナ禍であっても事業のやり方を工夫することで可能な限り中止にせず事業展開しているところです。説明は、以上です。

##### ○教育長

今回検討したなかで、外国語教育の地域人材の活用の件について、×がついています。これは、各園・学校に配置されているALTを活用した結果、地域人材に助けがなくても外国語教育を実践できたとい

うことです。現在、町としては、外国語教育に重点を置いており、今年度の新たな取組として中学2年生、3年生を対象に中学校英語教育実施状況調査を実施します。これは、英語力がどの程度あるかを国際的な指標を用いて測定するものであり、読む・書く・聞く・話すの4技能から英語力を測ります。テストの結果については、当該生徒、保護者、担当教諭にもフィードバックされるので、英語担当者の授業力向上にもつながります。

○事務局 取組の内容について補足させていただきますが、開成町教育振興基本計画の計画期間が、令和元年度から令和6年度までの計画となっています。今年で4年目に入っている段階で、取組も3歳児学級同様にすでに完了してしまっているものや、コロナ禍によって当初予定していた状況から取組の形態が変化しているものも多々ありますので、そこは計画ベースで様々な取組を行っていきませんが、今回も検証委員の方にも意見をいただきながら、評価に照らして理解をいただければと思っています。評価された内容については、令和7年度の計画に反映していきたいと考えております。

○教育長 この件に関して、他に御質問はございますか。

○全委員 質問なし。

○教育長 それでは、本件に関してはここまでとさせていただきます。他に委員の皆様から報告事項等ありましたらお願いします。

○委員 部活動の地域移行に関して私の考えをまとめてきたので共有させていただく。近年の少子化及び教員の働き方改革に関連して、令和5年度からの部活動地域移行に関して開成町として何ができるのか、何が必要なのかを考えた意見である。まず、開成町の特異性は何かと考え、中学校が1校で少子化も顕著でないということで、部活動の地域移行は必要あるか否かを考えた。部活動ガイドラインが、平成30年に策定されたことで、教員の働き方改革の観点から何が変わったか、生徒の生活はどう変わったのか、改革は十分なのかを検証する必要があると考えている。

開成町だからこそできることを考えてみる機会だと思う。広域連携の可能性や伝統文化等における合同部活動の可能性など、工夫次第でできることはあると考える。

このような考えに至った経緯だが、先日、将来仕事として吹奏楽に関わることを目指す東京音楽大学吹奏楽アカデミーの学生に対して講義を行ったのだが、質疑応答では、部活動の地域移行について、考えを聞かれるなど、ここ最近の動きに対する学生の関心は高いと感じた。

その時、答えた内容をまとめたものが本日配布した資料の最後にある「私が考える部活動の理想像」である。また、来月、秋田県の吹奏楽連盟小学校部会・小学校管楽器教育研究会で、自分の社会教育活動について講演をする予定である。少子高齢化率全国一の秋田県では、金管バンドなどの小学校の課外活動が風前の灯であり、クラブを社会

教育化していくことが急務とのことである。

現状、自分が日頃行っている社会教育活動が地域部活動の成功事例として注目されながらも、教育委員の立場からは何もできていないことを痛感しているところである。

私が考える部活動の理想像だが、先日、部活動の地域移行に関するテレビニュースの中で、剣道部と習い事のバレエをやめざるを得なかったという事例が紹介されていた。これはとても残念なことだと思う。

私の身近にも中学校 3 年間吹奏楽部に没頭し、高校に入るとダンス部、弓道部、軽音楽部、他の部活に入る生徒たちがいるが、話を聞くと、必ずしもそれが燃え尽き症候群だったわけではなく、もともとやりたいことが複数あり、さまざまな思いで新たな部活動を選んでいることが分かった。そこで、理想としては、日替わりで音楽をやったり、スポーツをしたり、ボランティア活動をしたり、勉強をしたり、いろいろなことを同時進行できるくらいの時間的・精神的ゆとりの存在がきっかけ作りの観点・生活の質の観点から望ましいのではないかと考えている。一生親しんでいけるものに出会うためには、青少年の時期に接する機会ができるだけたくさんあった方がよいはずだと思う。以上である。

○教育長

昨日、足柄上地区教育長会があったのですが、部活動の地域移行の問題が出ました。当町では、現状、スポーツ団体等に今後の動き等について事前情報提供をしているところです。文化関係の部活については、文化庁の方から通知等はありませんが、文化関係の部活に関しても同様の対応を取りたいと考えております。

私も本澤委員の考えに近いのですが、日本の部活は、一度始めたら最後までやるという流れがあるのですが、欧米先進国はクロストレーニングというものが盛んです。クロストレーニングというのは、例えばバスケットボール選手がシーズンオフは体幹を鍛えるために、サーフィンを行ったりすることでトータルの運動能力を高めようとするものです。このような考え方を部活動にも当てはめれば、例えば 1 週目は楽器を楽しみ、2 週目は、サッカーをやって汗を流すことができたなら、理想だなと考えています。そのようなことを指導者が許可するのかという問題はあると思いますが、この点さえクリアできれば、様々なことを体験させるという意味で地域におけるクラブ活動は有益だと考えています。本澤委員にお伺いしたいのですが、地域のクラブ活動である子どもは毎週来るが、ある子どもは稀にしか参加しないようなケースがあった場合、指導の難しさのようなものはあるか。

○委員

正直に言って指導のやりにくさはあると思うが、例えば、月・水・金曜日は、楽器を習い、火・木・土曜日はサッカーを習う等、そのような参加の仕方ができるのであれば問題ないと考える。

○委員

どのような活動であっても、子どもの頃から一生懸命練習して、より良い成績を残そうと思うものである。私も子どもの時は、様々な活

動をやった方が良いと思うが、その活動に対して子ども又は保護者一人ひとりが何を求めるか違うところに難しさがあると思う。大会等で優秀な成績を残すことを目的に活動するのか、サークルのようなものでみんなで楽しく活動できれば良いと考えるのか価値観が異なる部分はある。どうしたらよいのと聞かれると、最終的には、本澤委員から提案があった部活動のあり方が良いのではないかと考える。

○教育長 部活動の地域移行に関して、一部パイロット事業的に行っているのが卓球部です。この件については、今後、関係機関と調整、情報共有しながら進めていきたいと思えます。他に何か御意見はございますか。

○全委員 意見なし。

○教育長 それでは、本件については、ここまでとさせていただきます。

閉 会 : 教育長より閉会の宣言